

クマ出没時における学校の対応マニュアル(案)

R6.7 岡谷市教育委員会

1 未然防止対策

過去にクマの出没情報があった地域等で山に近づく校外活動等を行う場合は、クマよけの鈴などの音の出る物や撃退スプレーの携帯など、学校で準備を行う。

学校は、クマの習性や遭遇時の対処方法の研修を行い、児童生徒に指導を行う。

学校付近でクマの目撃情報等があった場合は、朝夕の時間帯はクマが活発に行動する時間帯のため、学校から児童生徒に特に気をつけるよう注意を促す。

学校付近や通学路に近い場所で、クマの出没情報等があった時に備え、学校は児童生徒や保護者への伝達や、関係機関等への報告等の手順を確認する。

2 児童生徒がクマを発見・遭遇した場合の対応

児童生徒が登下校時や休日にクマを目撃した場合は、刺激しないよう静かにその場から立ち去る。特に子グマを目撃した場合は、近くに母グマがいる可能性が高く、大変危険なため、速やかに走らず、静かにその場から立ち去る。

児童生徒や家庭等から学校にクマの目撃情報等が寄せられた場合は、速やかに市教育委員会や関係機関等に連絡し、児童生徒の安全確保に努める。

※市の連絡先、教育総務課、農林水産課、危機管理室

3 行政機関等からクマの出没情報があった場合

行政機関等からクマの出没情報が出された場合、学校長は、職員間で共有するとともに、自校の危険度等を踏まえた上で、必要に応じて校内放送や保護者メール等を活用し、児童生徒や保護者に注意喚起を行う。

4 登下校時の安全確保

クマの出没場所が学校や通学路に近い場合、学校長は、市教育委員会と相談の上、安全な登下校の方法を判断する。

危険度が高い場合は、保護者同伴による登下校や教職員同伴による集団登下校等により安全を確保し、児童生徒及び家庭等への伝達を行う。

5 参考(クマの生態など)

東日本に生息するクマはツキノワグマ

体長は100cm～150cm(オスはメスよりも大きい)、体重は40kgから120kg

聴覚と嗅覚に優れ、運動能力が高い(時速40km以上で走ることもある)

春は山菜、夏は蜂蜜や昆虫、秋は木の実を捕食、6～7月が繁殖期、12～4月は冬眠

大人のクマは30～70平方kmの行動圏を持ち、1日10キロ以上移動する例もある

参考（児童生徒・保護者周知用）

クマと遭遇しないためのポイント

朝夕の行動は避ける

クマは明け方と夕方の行動が活発なため、この時間帯は近くの山には入りません。登下校などで山に近い場所を歩くときは、できるだけひとりで行動せず、複数で行動します。

周囲の確認

クマの行動範囲はとても広いので、市内でクマの出没情報が出た場合は、近くにクマがいると思って行動します。

渓流での釣りや川遊び等の場合は、水の音で気配を感じずに接近してしまうことがあるので、周囲には十分気を付けます。

クマのいる場所に近づかない

山中はクマの生息地です。クマの足跡や糞などを見つけたら引き返します。

音の出るものを携帯する

人の気配を感じるとクマは自ら避けていきます。クマに人の存在を知らせるため、山中や山の近くを歩くときはクマ鈴や笛、ラジオなど、音の出る物を携帯するようにします。

子グマを見たら立ち去る

子グマの近くには必ず母グマがいます。母グマは本能で子グマを守るため、人や車など動く物を攻撃することがあります。小グマを見かけたら、静かに、そっと立ち去ります。

犬を連れて山に入らない

人の気配を感じたクマは、身を隠してやり過ごすことが多いですが、犬が一緒の場合は、犬に吠えられるなどして、驚いてしまうと攻撃することがあります。クマがいそうな山に犬を連れて入ることはやめましょう。